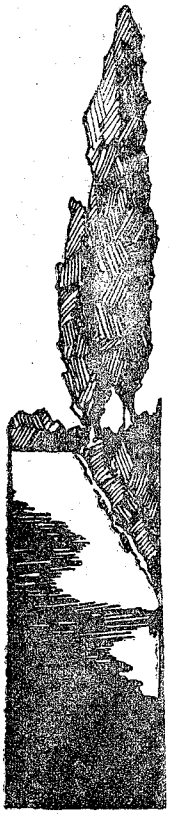
論說

道路より道德へ

永井亨



「道路より道德へ」といつては一見奇なる題目の如くであるが、一たび字典を繙けば何等異とするに足らない所以を知るであらう。道は人の守るべき筋途であり、人の行ふべき條理であり、路は事物の筋途、物事の條理であるといふ。されば古來我國の道路は條といはれ筋といはれ、今でも舊都ではさういはれてゐる。道には大道小道があり國道、市道、里道があり、路には廣路細路があり街路、徑路があり、千差萬別ではあるがみなこれ人の越ゆべき道であり、人の通るべき路であり、人の行くべき道であり、人の進むべき路である。然らば人として行ふべき正しい道、卽ち人倫五常の道を道德と呼び、道義又は道理と稱するは蓋し當然であらう。たゞ道路は必ずしも人に限られずして人馬の通行する道であり車馬の往來する路である。が、道德も亦必ずしも人に限られず、馬こそ馬耳東風とか馬の耳に

念佛とかいはれてゐるが、その馬でさへ乘手に恩を報じ、飼主の德に酬ゆる事例は人の知るところであらう。鳩に三枝の禮あり、烏に反哺の孝ありと說かずとも、怪しの鳥獸さへ恩を報じ德に酬ゆる心はあり況んや人倫の身としていかで其の理を知らざるべき云々と平家物語の中に書いてある。

○

されば佛法に歸依する人々も有道有德の人々も道人といはれ、儒敎の君子も道敎の方士――方術道術を究める士――も道士といはれ道神は道敎の神をいひ、道院、道觀は道敎の寺をいひ、道家道門は道敎の學者をいふ。道場は佛道や道義を修業する場所をいひ、我國では武藝の稽古場をいふ。道心、道念は佛道を信じ或は道を辨まへる心念をいふ。宋儒の性理學を稱して道學といひ、心學ともいひ、我國の幕末に心學者の說いた通俗儒敎乃至民衆道德は道話といはれ、廣く道學を解すれば儒敎の學も道敎の學も含まれ、いつか道學先生は世事に暗き事理に通ぜぬ人々の異名となつてゐる。我國では道樂者といへば放蕩兒を意味し、道化者といへば諧謔師を意味する。とはいへ道の中には王道も覇道も權道も含まれ、正道も邪道も外道も含まれ、有道も無道も非道も含まれ、斯道、常道、明道、善道があればそれ〴〵それに對立する道があり、もとより佛道も儒道も道敎も道學も道話もみなこれ道ならざるはない。道門は道德に入るの門といはれ、道は遠きに求めずとも近きにあり、事は難きに求めずとも易きにありといはれ、天道は遠く人道は近しといはれ、道は一のみといはれ、路を異にし歸を同じうするともいはれ、一見道は入り易く近づき易い。が、往を觀て來るを如り、近きを以て遠きを知るは

容易の業でなく、千里の行足下に始まると知れば毫釐の差も千里を繆まることなしとしない。

○

然らば地道ともいふべき道路は如何。道に道人がある如く、路にも路人があり、道人は俗人と區別され有道の人といはれてゐるが、路人は有情の人でこそあれ道路途上の人であり、行人であり、他人であり、その間に何等の關係も交渉もない人々であるといはれ、路傍に佇み路頭に迷ひ行路に餓する者があつてもみなこれ途上の人なりとされてゐる。道路の行程は必ずしも平易でなく、時として岐路に立ち、迷路に入り、塞路に面し、日暮れて道遠しと嘆ずることもあり、峻路に上り、危路に陷り、血路を開かねばならぬこともある。しかも道路の延長短きに失し、幅員狹きに失する事例は國内到るところに訴へられ、動もすれば道路は修理されず、街路は鋪裝されず、下水の設備は缺け、路面は清掃されず、排水されず、泥土で蔽はれ塵埃で埋まれ、いかにも不秩序であり不衞生であるといふのが我國の都鄙を通じての一般道路である。そこに自動車が疾走し、荷馬車が徐行し、自轉車が走り、配達車が急ぎ、塵芥車も糞尿車もその間に混じ、軌道に電車が通ずれば軌道上にその何れもが爭ふて軌り、たゞ近時人力車が影を沒しつゝあるといふのが我國の帝都其他の大都市の街路である。聞く我國にも道路を守り旅行を安からしめ或は街路を守り通行を安からしむる道祖神や道陸神が在すといふではないか。交通道德も衞生も小學兒童の教科書中に說かれてある筈ではないか。しかるに世人は往來を見ること宛ら遊戲場の如くであり、芥棄場の如くである。封建時代にあつてさへ往來といへば讀本又は

入門の意に用ゐられ、商賣往來に無い商賣といへば正業ならざる商賣の意であつたのである。

何故なれば我國の道路はかくまでに注意されず默過され蔑視されてゐるのであらうか。それは一言にしていへば封建傳統の然らしむるところである。王朝時代にあつての道路は頗る廣かつたのに源平時代に至れば京師がしば〳〵兵燹に罹り、そのため京阪地方の道路は甚だ狹くなつたと傳へられ、いつの頃よりか、市街の道路も田制に則つて條町の名目を用ゆることゝなつたと說かれ、古來國道の廣さは市街の大路よりも狹く、德川時代に最も樞要なりし東海道の道路も平均五、六間の幅であつたといひ、舊來何處の行路巷街でも輕きは重きを避け、賤きは貴きを避け、少きは長きを避けよと定められ、德川時代には人の相避る法定がなく士人のみ右へ避けたといふ。それは左に避くれば互に拔打に人を斬り得るからであつたといふ。封建時代の道路や街路の狹かりし一つの理由は當時の軍事上の目的に出たものらしく、街路の交錯してゐた理由の一つはそのためであつたと考へられ、新市街の道路が雜然としたのは家屋の建築が道路の築造に先だつのを常としたからであらう。一般に道路の築造に意が用ゐられなかつたのは時代の支配階級が肩輿に乘じて外出したゝめであると察せられ、のりものに乘る人とそれを擔ぐ人、そのまた草鞋を作る人とに時代の社會階級が二大分されてゐたからである。封建時代の常として家を出づれば七人の敵ありとされ、よしや旅は道づれ世は情であらうとも旅の恥はかき棄てられ、人を見れば盜賊と思へと敎へられ夜隱に乘じて街路が切棄場と化したことさへあり、西と敎へれば東と悟り、迷ふ者路を問はずといはれて、當時の道路には

右は京通、左は伊勢路といふ如く立札されてゐたが、今日の鐵道には驛名札が神宮線乘換、次は北陸線乘換「浦港連絡」と掲げられてある。兎もあれ當時にあつてはその事が何を意味するかは讀者の判讀に任ずる。恐らく武士階級の間にのみ行はれた武士道を除いては行人の間に又他人の間に道德の定まれるものがなかつたであらう。今日にあつてはその武士道さへが廢れて交通道德其他一般社會道德の定まれるものがない。

元來人倫五常の道德は儒教に出でゝ、儒教は唐虞三代の事跡と思想を傳へた封建道德であり、家族道德であり、それが德川時代の國教の如くなつたことはさこそと察せられ、それは何ものか對人的關係が結ばれた人々、特別の間柄に置かれた人々の間にも行はれる道德であり、いはゞ門內の道德であつて門外の道德でなく、家に入つての道德であつて家を出でゝの道德でない。當時にあつて國家道德はあつたが今日にあつての社會道德ではあり得ない。今日の社會道德は夫婦、親子、兄弟其他特別の間柄に於ける道德ではなく、政治上、經濟上、社會上の集團又は團體についての道德であり、その間おのづから正邪善惡を決すべき道德的基準が異なり、たゞその基調として橫たはる道德的感情(情緒情操)に於て多く異なるところがないのみである。かゝる社會道德を建設せんことは今日の時代の要求であり、そのためには道德が門外に出で途上に現はれ路頭に立ち巷間に傳はり僻地に及ばねばならず、そこに輿論や制裁や規範が形作られてそれが政治、經濟一般社會生活を律するに至ればこれ社會道德である。政治道德の一歩は國民が投票場裡に一票を投ずるところに始まる。經濟道德の一

歩は生産者が日常作業場の勞働功程に着くところに始まる。一般社會道德の一歩は市民又は消費者が日常往來の途上に、通勤の車内に集團生活を營むところに始まる。かくて今日の道德は道路によつて導かれ、道路を通じて行はるべき所以がほゞ察せられたであらう。

○

終りに「道路より道德へ」――の目標を實効あらしめんがためには、道德の建設に適應すべく道路が築造され改造されねばならぬ。古來道路は軍事上、政治上の目的に出たものと、商業上、經濟上の目的に出たものとがあつて、政治上の中心都市たる首府を起點とし、それを中心として築造されるを常とした。古代ローマ帝國の道路は、巨費を投じて築造され二十九條の軍事道路がローマに這入つてその全長五萬三千ローマ哩に及んだといひ、古代ギリシヤの都市は碁盤目型の市街より成つて建築美によつて裝飾され、アウグストス以下のローマは煉瓦の都より大理石の都へと化したといふ一言で想像され、中世には封建都市と自由(商業)都市とが勃興し、近世に入れば重商主義と文藝復興とが佛獨二國の都市の改造を促し、直線街路と廣場と建築物とが相俟つて都市を集中化し美化したのはパリーであり、稱して街路崇拜といひ、國威國權の象徴として改造されたる都市計畫である。次に放射線式(蜘蛛網狀)道路網と市街線(同時に建築線)と公有地とが相俟つて都市を大規模にし有機的、組織的ならしめたのはベルリンである。然らばロンドンはといへばそれは賃取道路と環狀鐵道網と住宅地と田園都市(郊外)とが相俟つて都市を無計畫的に分散化したものである。けれどもロンドンの都市

計畫と住宅問題とは一體化して住民殊に勞働者住宅の提供、不衞生區殊に細民窟の除去とに最も努めたものはロンドンである。かくイギリスにあつては住宅のための道路であり、生産のための道路であるのに、フランスにあつては道路のための建築物であり、消費のための道路であり、イギリスの街路は自治の象徴とも紐帶とも見るべく、フランスの街路は國權の發現とも延長とも見るべきであらう。日本の都市は前述の如く中世の封建都市乃至商業都市の舊態を脱せずして明治時代に至り、西洋の都市に倣つて面目を一新し、災害復興後の東京に於て首府の形態を具へるに至つたが、街路も建築物もパリーに比すべくもなく、それよりも住宅と田園郊外に於てロンドンと比すべくもない。國内一般の街路及び道路に於ても英佛獨何れとも比すべくもない。世界の文明國中最も道路を輕視した日本はその築造改造を期し、その保持修理に努め、その利用改良を期さねばならぬ。そこに交通道德と衞生の發達を期すればやがて社會道德が社會衞生と共に確立するであらう。

ローマの道路改良精神を學べ

長谷川久一

能く人の言ふが如くローマの成るや決して一日にして成つたものではない。蓋し其の始め伊大